



世界連邦運動協会石川県連  
合会の秋の講演会（北國新聞  
社、N H K 金沢放送局、北陸  
放送、テレビ金沢、世界連邦  
宣言自治体石川県協議会後援）  
は、金沢大学フロンティアサ  
イエンス機構特任教授・名古  
屋大学名誉教授の岩坂泰信理  
学博士を招き、さる十一月九  
日金沢工クセルホテル東急で  
行われた。写真は「黄砂が運ぶもの」と題し  
て講演し、会員や一般市民、  
学生ら約百六十人が熱心に聴  
講、質疑も交わされた。また、  
世界連邦推進全国小中学生、示  
賞者表彰も合わせて行われた。  
杉山栄太郎石川県連会長が

秋の講演会に百六十人  
県連石川連

環日本海域は”環境協調“めざせ

岩坂金大  
特任教授

「地球環境問題は今や世界的緊急課題となつており、私たちちはより正しい知識を吸収していくたい」と開会あいさつした。次いで岩坂教授は「環日本海域の国や地域は、大気

世界連邦日本大会を  
今秋、金沢市で開催

世界連邦日本大会を  
今秋、金沢市で開催

さる十月二十五日、国連大  
学ウ・タントホールで世界連大  
邦運動六十周年記念日本大会  
が開催され、これに参加した  
印象と私見を述べ、県内運動  
の活性化と組織拡大にむけ、  
諸兄姉のご批判を仰げ  
れば幸いです。

第一印象は、大会参加者が多く、懇親会は旧制高校か女学校の同窓会にも似た雰囲気でした。互いに人生の多感な年代に、戦争の慘禍や悲劇の原体験をもち、「世界平和」を単なる抽象論や理想で

世界連邦六十年の今

世連石



なく、現実の願いとして、世界連邦運動に参加した人達の情念を感じます。同時に、いまや多数派を占める戦後世代との断絶を痛感しました。もつとも、大日本帝国崩壊から六

石川県連は地元での運動強化を図るきっかけにしたいとして受け入れた。石川県における世界連邦運動は、昭和31年9月に旧能美郡国府村議会（現在の能美市と小松市）が世界連邦都市宣言を可決したのを皮切りに、県議会はじめ県内全市町村が相次いで同様の宣言を可決、昭和32年8月に石川県支部が

の環境科学からみると、環境共同体「ともいべき地域であり、環境協調を目指した努力が求められる」とスライドを併用しながら力説した。(岩坂教授の講演要旨は一面に)  
質疑では、黄砂の問題が新聞などに何故あまり扱われないのか／黄砂は悪者とばかり考えてきたが、日本海を流れ  
る暖流寒流との関係はどうか

織部長 勝夫  
  
石川県連に女性会員が少なく、女性への参加呼びかけが必要と感じました。三つめは、町村合併後の自治体への働きかけです。過去に、石川県議会と全市町村議会が、世界連邦宣言都市の決議をしたのに、他県に比しつぎに、ありまであります。

風化させてはなりません。とにかく戦前・戦中経験世代は、「年寄りの昔話」と言われようとも、孫や子のしあわせは「平和が大前提」であることを、次世代に引き継ぐ義務が

発足、平成19年10月20日には世界連邦運動石川50周年記念シンポジウムが開催された。石川県での全国大会はこれまでに2回開かれている。世界連邦宣言自治体全国協議会が主管する、パレスチナ・イスラエルの遺児らを招く「中東和平プロジェクト」も今夏金沢で開催される予定であり、石川県連としてこれも協力していくこととした。

石川県議会支部は「昨年解散されいていません。残念なことに石川県議会支部は「昨年解散してしまいました。一方、2005年衆議院で「世界連邦実現への道の探究に最大限の努力」を政府に求める決議を採択し、07年には国際刑事裁判所条約を批准、二百人以上の超党派国會議員が「世界連邦日本国会委員会」に参加している中央と石川の落差は恥ずかしいほど大きく、あらためて県内自治体と各議員に対する働きかけが求められています。

◎池田行雄理事が秋の叙勲受章 世界連邦石川県連理事の池田行雄(82)は先の秋の叙勲で瑞宝双光章を受章された。池田氏は金沢東警察署長などを務め、現在は石川県宗教連盟事務局長。金沢市城南一丁目十二ノ十一に在住。

◎茶谷盛岡元理事が逝去 世界連邦石川県連元理事の茶谷盛岡氏がさる十二月四日逝去された。八十四歳。遺族宅は金沢市光が丘二

ある。日本海は空気と海がよく繋がつた世界でも典型的な場所である。中国発の砂塵が日本海にどれだけ落ちるかはこれから研究問題になるだろう。中国は広い国土で、経済的落差ばかりか環境の違いも大きい。中央政府は一元的に処理できない。法律を作つても、運用を一律にできない難しさがある、などと解説した